

授業改善推進プラン

【国語】

○ 児童の状況

- ・国語に対して真面目に取り組もうという意欲をもっている児童が多い。一方で、国語の読み取りについて難しいと感じている児童も見られ、個人差が大きい。
- ・「言語についての知識・理解・技能」における漢字の習得は、読み・書きともにおおむね良好で、学校だけでなく家庭学習の成果が表れている。しかし、主語や述語、修飾語などの語句や文の構成についての理解は不十分である。また、敬語についてもやや習得率が低く、日常生活で生かされていない。
- ・「読む能力」については、物語文に比べ、説明文の読解の正答率がやや低い。読書を好む児童は特に高い正答率を示していた。
- ・「書く能力」については、個人差がかなり大きい。作文などを書き進める活動に意欲的に取り組むが、描写の工夫や起承転結を意識した書き方など技能的には不十分である。意見文では、事実と意見を区別して書くことなど、ねらいに適した文章の書き方が十分とはいえない。また、少数ではあるが、書くこと自体に抵抗があり、全く書き進めることができない児童もいる。
- ・「話す・聞く能力」については、自分の思いを伝え合う学習を他教科でも取り入れることによって、型に沿った話し合いはできるようになってきた。しかし、相手の話を受けてそれに関係したことを質問したり答えたりする力は弱い。また、立場や考えを明確にしながら自分の意見を述べることや、話し合いの観点を整理し、まとめたり関連付けたりすることは苦手な児童が多い。

○ 指導についての課題

- ・「話すこと・聞くこと」では、自分の立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う指導を充実すること、話の要点を聞き取り効率よくメモを取ること、聞き手にとって分かりやすいスピーチを行うなどの言語活動を充実することが必要である。また、語彙を増やし、話したいことについて表現する力を身に付けることも課題である。読書や辞書の活用をすることで、豊かな言語能力を身に付け、相手が意図することを理解し、自分の思いを言葉で分かりやすく伝えることができるようにさせていく。
- ・「書くこと」では、目的や課題に応じて情報を取り出し、条件に合わせて書く活動を充実させる必要がある。そのためには、「読むこと」や「語彙を増やすこと」と関連付けて、目的や意図などに応じて文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉え、書かれている内容について事象と感想と意見の関係を押さえる必要がある。また、自分の考えを明確にしながら読んだり、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を

捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめたりする指導が必要である。さらに、それぞれの発達段階に応じたで文種を押さえた書き方の指導を工夫する必要がある。

- ・「読むこと」では、説明的文章の内容を大まかに捉え、問いに対する答えや、筆者の考えを捉えやすくするような指導を工夫する必要がある。教材文をいつも同じ方法（段落ごとなど）で読み取るのではなく、その教材に適した指導方法を考えていく必要がある。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、敬語の適切な使い方について国語科での意図的な指導をしていくことと同時に、具体的な事実に即して日常的に正しく用いる態度と習慣を養い、定着を図ることが必要である。また、国語辞典の活用を習慣付ける指導、分からない言葉を調べる習慣付けが必要である。修飾と被修飾との関係や、指示語や接続語の果たす役割などへの理解が不十分なため、教科書以外の読みの指導や文章を書く機会を捉えて適宜指導する必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

(1) 話すこと・聞くこと

- ・「話すこと・聞くこと」については、相手意識や目的意識をもって話したり聞いたりする力を育てていく。朝の会に1分間スピーチを位置付けたり、グループで話し合うなどの協働的な学習をする時間を計画的・継続的に組み入れたりする。また、学級活動や道德等を通して話し合いを進行し、まとめていく役割を全員が経験する機会を設ける。
- ・落ち着いて話を聞く習慣を身に付けさせるために、1年生から、朝の会や帰りの会で、日常生活での気づきをスピーチさせていく。自分が経験したことを順序立てて話したり、友達の話に関心をもって聞いたりすることを意識付ける。さらに、その話に対して質問させたり、感想をもたせたりする指導に力を入れる。

(2) 書くこと

- ・日記やお話作り、手紙など、低学年の時から書く楽しさを味わわせるような指導の工夫をする。
- ・短文作りなどで書くことへの抵抗感をなくしながら、書く機会を継続的に設定する。
- ・高学年においては、主題や要旨が明確に表れる文章を書く活動を重ねるとともに、それらについて交流する学習の機会を設けていく。また、説明文・報告文・意見文など、様々な文種の書き方を丁寧に指導していく。
- ・「読むこと」と関連付けて、物語文や説明文などの優れた表現方法に着目させ、書く活動に活かせるようにする。
 - ①視写を取り入れ、よい文章を書き写す。
 - ②段落や文章の構成を意識して読む力や、文体を理解してまとまりとして文を読む力を身に付けられるようにする。

(3) 読むこと

- ・国語科や朝読書の時間を中心に読書の時間を確保し、読書の楽しさを味わわせながら、文章に親しむようにする。（6、12月に全校読書旬間を実施）
- ・図書館司書や図書の担当教諭、担任がよい図書を紹介し、読むことへの興味を喚起していく。また、児童同士が良い図書の紹介ができるような機会を設ける。
- ・「読むこと」では、長文の読解に苦手意識がある児童が多いため、文章に親しむ経験を積み重ねた上で、長文の読解指導に力を入れていく。文学的文章教材では、叙述に即して登場人物の様子や心情を読み取るために、心情曲線などを用いた指導を行う。高学年では、情景描写などからも登場人物の心情を読み取れるように指導する。説明的文章教材では、「大事なことが何か」を捉えさせ、主題や要旨をまとめる学習に力を入れる。また、それぞれの書き方による表現方法の違いに気付かせるような指導を行っていく。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・漢字の読み書きについては日常的に小テストを行い、目的意識をもって学習する姿勢を育てるとともに、クイズやゲーム的要素、タブレットによる学習を取り入れるなどして、楽しんで学習できるように工夫をする。また、家庭学習も取り入れ、保護者にも協力を呼び掛けていく。
- ・意味が難しい語句については、文脈から想像する能力を付けるとともに、辞書を活用できるように、辞書の使い方の指導を丁寧に行う。また、3年の辞書使用入門期だけでなく、高学年になっても必要に応じて辞書で言葉の意味を調べることができるようにしていく。
- ・話す、書く活動の中で、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係、文と文とのつながりなどを意識させる。
- ・古典のリズムに触れ、音読することの楽しさを味わわせる。成丘小暗唱詩文集も活用する。

(5) その他（言語環境の整備など）

- ・正しい日本語の使い手の育成を意識し、国語科の学習だけでなく、日常の言語生活の中で正しい言葉を使う態度と習慣を養い、定着を図る。
- ・校内の言語環境を大切にし、壁面の掲示・教室内の話形の掲示等の工夫を行う。
- ・教師自身も言語感覚を磨き、児童の言葉遣いに敏感になるよう研鑽に努める。
- ・保護者会等で家庭における言語環境の大切さを啓発する。
- ・各フロアに、異学年の作文などを掲示し合い、良さを認め合う環境づくりをする。
- ・学習内容の理解を深めるために、挿絵や教材文の提示、児童の作品紹介などに、一人一台端末等のICT機器を適宜活用する。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を追求する国語の能力を身に付けることができるよう、児童の実態に応じて日常生活に必要とされる記録、説明、紹介、感想、討論などの言語活動を工夫する。

【算 数】

○ 児童の状況

- ・問題解決学習に継続して取り組んでいるため、算数に対する関心・意欲は高い。しかし、学習意欲が持続しない児童もいる。
- ・自分の考えを発表する時間を設けたり、ペア学習を取り入れたりすることで、自分の言葉で表現できる児童が増えつつある。話形を提示することで、自信がない児童も、自信をもって発表できるようになってきた。
- ・学習の理解の個人差が大きい。特に高学年になるにつれ顕著である。

<児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果から>

- ・都の学力調査結果を見ると、「A 教科の内容」において、「思考・判断・表現」の正答率は、都 38.1%、本校 46.4%、「技能」は、都 64.5%、本校 69.9%、「知識・理解」は、都 52.9%、本校 59.2%、「関心・意欲・態度」は、都 85.0%、本校 85.8%と、全ての観点において、都の結果を上回っている。「B 読み解く力に関する内容」においても、「取り出す力」は、都 52.0%、本校 57.4%、「読み取る力」は、都 21.4%、本校 28.9%、「解決する力」は、都 20.6%、本校 27.0%と、都の結果を上回っている。

<全国学力調査結果から>

- ・全国学力調査結果においても東京都、全国の平均点を大きく上回っている。また全国学力調査結果から読み取れることとして、無解答の児童の割合が著しく低いことが挙げられる。これは児童一人ひとりが、授業に意欲をもって取り組んでいる成果であると考えられる。

○ 指導についての課題

- ・筋道を立てて、論理的に考える力を定着させるのが難しい。
- ・自分の考えをすすんで表現させることが難しい。
- ・一人一人の個人差に対応する指導の工夫が必要である。
- ・最後まで学習に取り組もうとする学習意欲の持続を引き続き図っていく必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・ワークテストや家庭学習（計算ドリル）の結果からフィードバック学習を行い、一人一人のつまずきを明確にして、既習事項の確認を行っていく。そして、コースや実態に応じた課題や教材を準備して、活用していく。
- ・教科書の課題や、ノート提示の際にデジタル黒板をつかう等、思考のツールとして ICT 機器を効果的に活用し、「分かる、できる、楽しい」授業を進めていく。

- ・授業の初めに学習のねらいを明確に示し、授業の終わりに子ども自身に学んだことを振り返らせる。
- ・ペアやグループで話し合い、考えを伝え合ったり、深め合ったりする協働的な学習を設定する。
- ・文章題の立式時（演算決定）には、数直線図のよさを実感させるとともに、言葉の式を使ったり、簡単な整数への置き換えを行ったり、図や式を使って考えたりするなど、既習の解決の仕方を生かすようにする。
- ・作業的・体験的な活動などの算数的活動を多く取り入れ、各内容の理解がより深められるようにする。
- ・個別の支援としてヒントカードを活用し、一人一人に自分の考えをもたせる。また、ノートにまとめた考えを、相手を意識して工夫して伝えたり表現したりする場を設定する。
- ・ホワイトボードなどを活用し、自分の考えと友達の考えを比較検討する場面を作って多様な考え方があることを理解させるとともに、どう考えていけばよりよく解決できるかを話し合わせる。それによって、筋道を立てて考える力や内容の理解を深めていく。
- ・知識や技能を確実に定着させたり、生活に活用したりできるようにするために、およその数を見積もるなど、数量や図形についての豊かな感覚を育成する指導を充実していく。
- ・形式的な公式の指導ではなく、意味をしっかりと理解するための時間を確保し、活用を通して正しい公式の定着が図られるようにする。
- ・基礎・基本の確実な定着を図るために、成丘タイム（朝学習）や、サマースクール（夏季休業中）、なりおか学習教室（放課後学習）を活用して反復練習をする。
- ・少人数学習指導の特長を生かし、個に応じた指導の充実を図るとともに、少人数学習指導担当と担任が連携した指導を行う。
- ・児童の習熟度に合わせた補充・発展学習の時間も確保する。

【理 科】

○児童の状況

- ・「全国学力・学習状況調査」において、平均正答率が、全国平均より高く全国の平均正答率を上回った。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、教科の内容の正答率は、都平均より高く、読み解く力に関する内容の正答率は、都平均より高くいずれも都の平均正答率を上回った。
- ・提示された課題に対しては、よく考え、取り組むことができる。

- ・実験や観察などに、すすんで取り組むことができる。しかし、観察をする際、葉や茎の様子など詳細にスケッチすることが苦手な児童もいる。
- ・課題発見→予想→解決のための工夫→実験・観察→考察というサイクルが学習の中で定着している児童が少ない。
- ・実験や観察をする際、変化を数値や数量で表現したりするなど、具体的にまとめることが苦手である。

○指導についての課題

- ・自ら課題を発見し実験観察から結論を導き出すなど問題解決学習を充実させること。さらに自分の考えを発信することを身に付けさせるための指導も課題である。
- ・体験活動することのみに捉われず、予想（仮説）を立て、実験（観察）し、検証するといった科学を学ぶ基本的な方法を確実に定着させていく指導が課題である。
- ・少人数グループでの協働学習を授業に位置付け、つながり合う学びを実践していくことも必要である。

○具体的な授業改善に向けての方策

【A 物質とエネルギー】

(中学年)

- ・実験や観察の際、目的を明確にし、変化を数値や数量で表現するなど、具体的な理科の観察方法を指導していく。
- ・結果がどうなるか、見通しをもって追究していく活動を取り入れ、一人一人が自分の考えを他の児童へ発信する場を設定する。
- ・児童の興味・関心の高まる活動を取り入れることで、事象に十分関わらせ、問題解決学習を通して理解を深めさせるようにする。
- ・科学的な言葉や概念を活用して、考えたり説明したりする学習活動を充実させる。ノート指導も充実させる。

(高学年)

- ・実験の意義、実験器具の名称や扱い方等の指導をていねいに行い、器具の扱いに慣れさせる。
- ・学習内容に応じて、ワークシートを用意したり、ノートのとり方を工夫させたりして、実験時の目的や観察の視点を明確にし、学習効果を高める。

【B 生命・地球】

(中学年)

- ・観察カードへ記録する際に、変化を数値で表現するなど生物の変化を具体的に捉える方法を指導していく。
- ・身近に見られる生物の活動を季節と関係付けながら調べさせる。季節ごとに見られる生物の違いに気付かせ、興味・関心をもって追究する活動を重視する。

- ・観察に際しても結果がどうなるかなど見通しをもって追究していく活動を取り入れ、次の季節やこれから先、生物がどのような姿になっていくのか、自分の考えを記述させるようにする。また、それらを他の児童と伝え合う場を設定する。
- ・星座早見盤の使い方に慣れさせる。

(高学年)

- ・月や星のように、実際に観察することが難しい場合は、ICT 機器を効果的に活用し、学習を深められるようにする。
- ・人体模型や実験器具等を有効に活用したり、インターネットで調べたりするなど、具体的な操作活動や調べる活動を通して児童に実感を伴う理解をさせる。

○その他（補充・発展指導計画等）

- ・理科室付近の壁面には、子どもたちが興味の湧くような掲示物を充実させる。
- ・学年担任は準備や事前実験を行い、指導内容や指導方法の質を更に高めていく。
- ・理科室を整備するとともに、図書教材やインターネット環境を整備し、児童が主体的に学べるようにする。
- ・教材掲示装置などの ICT 機器を用いて、より視覚的な授業展開を進める。

【社 会】

○児童の状況

「中学年」

- ・児童が興味をもって意欲的に取り組んでいる児童が見られる。
- ・簡単な地図記号、方位を理解している。
- ・2年次の町たんけん得た情報から町の特徴を捉える力に能力差がある。
- ・地図帳の活用の仕方、地図を読み取る力はまだ不十分である。
- ・東京都の周りの県など、地理についての理解が十分ではない。
- ・複数のグラフを読み取ったり、資料と事象を関連付けて読み取ったりする力が不足している。

「高学年」

- ・産業の様子や特色を理解する力はある程度身に付いている。
- ・グラフの読み取りや資料の活用はある程度できるが、そこから深く事象を読み解く力が不足している。
- ・資料から事実をある程度把握できるが、複数の事実を把握する際に注目しなければならないポイントやその関連性について気付けない児童が多い。
- ・歴史学習に興味をもち、歴史的な事象に関心をもって学習に取り組める児童が多い。
- ・時代の背景を押さえた上で、歴史的な事象の起こった要因や人物の働き、また歴史的な事

象が社会に与えた影響についてまで考えるに至らない児童が見られる。

○指導についての課題

- ・地図の読み取り（縮尺、地図記号等）については、様々な単元の中で機会をつくって指導しているが、普段の生活や事象と関連しにくいいため定着が難しい。
- ・グラフの読み取りについては、グラフから読み取ることができる数字だけでなく、社会的な事象や推移の原因、これからの移り変わりについて予測させるなど、論理的な思考や判断を身に付けさせていく指導をしているが、習熟させることが難しい。
- ・歴史学習では地図、年表、図、文章資料などの活用を図りながら学習することが多く、用いる資料によっては、歴史的事象の事実を正確に捉えさせることが難しい。

○具体的な授業改善に向けての方策

- ・地図記号、都道府県名といった基礎的な事柄を身に付けさせる指導を繰り返し行っていく。単元で扱う都道府県、地名はその都度、地図帳で確かめたり、地図記号や方位などのプリント、カード、ICT機器（動画視聴等を含む）を使って覚える活動を取り入れたりして、正確に読み取る技能を身に付けさせていく。
- ・社会科見学や地域巡りなどの活動を通して、体験や実感を基に社会認識を深めさせる。
- ・グラフや資料の読み取りでは、情報を整理し、共通点や相違点を考えるなど、その資料のもつねらいを捉える授業を丁寧に行っていく。それらが示す事実を確認し、調べ学習などに生かせるように展開していく。
- ・グラフを正確に読み取る力を付けるために、表題が何を表しているのか、時間的な推移がある場合は何が変化しているのか、一つの観点に絞って注目し、考えさせる。グラフから読み取った事実をもとに自分の考えをもてるようにする。他のグラフとの関連も細かに見ることができるようになる。
- ・社会的な事象を正確に捉えさせるために、ICT機器を活用し、児童の関心が高まるような分かりやすい資料を精選して提示する。
- ・「事実を捉えさせる」「関連を見い出させる」「要因や影響を推察させる」といった指導を積み重ね、児童の思考力を高めていく。
- ・身に付けた知識や技能を活用し、協働的に課題を追究する授業を進めていく。更に、社会的な事象と結び付けたり、友達の考えや意見を聞いたりしながら自らの考えを深めることのできるまとめ方を計画的に実施していく。
- ・教師が「教える」のではなく、「子どもたちが調べて、考える学習」をめざす。調べる活動は個人で、考える活動ではペアやグループ学習も取り入れながら、子どもたち同士でより深い学び合いができるようになる。

【音 楽】

○ 児童の状況

- ・音楽に意欲的に取り組む児童が多い。
- ・歌唱器楽ともにのびのび表現できる児童が多い。音楽づくりの経験は浅いが、楽しんで取り組んでいる。
- ・鑑賞活動も意欲的に取り組む児童が多く、聴く力も育ってきている。
- ・アドバイスをしたり、課題を伝えたりすると、素直に受け入れ練習を熱心に行う。また、自分で考えて表現しようとする意欲も見られる。
- ・音楽を特徴付ける要素や音楽の仕組みを理解していないので、指導が必要である。

○ 指導についての課題

- ・どうしても技術の定着に重きを置いてしまい、児童同士の交流や児童同士で作り上げる授業マネジメントができていないことが課題である。
- ・音楽を特徴づける要素や音楽の仕組みを、表現や鑑賞に生かせる指導ができていない。
- ・リコーダーに対しての苦手意識をもっている児童が多いため、みんなで演奏する楽しさを味わう指導や研究の研究をする必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・リコーダーにおいては、みんなで演奏する楽しさや、音色の美しさを味わえる工夫をする。
- ・1単位時間の中で、一斉指導のみならず、自分たちで考える時間や児童同士で関わり合う時間を設定する。
- ・「主体的・対話的・深い学び」を意識した授業を展開するためにも、見通しを持った授業計画と、質の高い発問を考え授業にのぞむ。また、PDCAサイクルを意識し、振り返りの充実を行う。
- ・音楽を特徴づける要素や音楽の仕組みを理解させるためにも、鑑賞と表現が一体化するよう活動内容を工夫する。

【図画工作】 授業改善推進プラン

A. 児童の状況

- 図工に対する興味・関心が高く、すすんで表現したり、鑑賞したりする態度が育っている児童が多い。

○初めて使う道具がある時などは、注意点をよく聞いて友達同士確認しながら気を付けて取り組むことができる。

○授業での時間配分を考えて制作に取り組む児童が多い。

○発想が豊かで、工夫を凝らして取り組む児童が多い。

△自分の発想に自信をもてず、他の児童の作品を模倣したりする児童も見られる。

△思いをもっていても最後まで粘り強く取り組めない児童がいる。

△全体的に日常の生活経験が少なく、道具の扱い方に慣れていない。

△話を聞く時と活動する時の切り換えが、すぐにできない児童がいる。

△制作時に私語が多い。図工の場合、心を解放させたり、友達との学び合いの意味で比較的自由に話すことを許容しながら活動することが多い。境界線としては、図工に関わる話以外はしないように指導していく。

B. 指導についての課題

- ・狭い図工室や教室の空間を上手に用いた、安全で作業しやすい環境づくり、作品保管場所づくりをしていく必要がある。
- ・自信をもってねばり強く取り組めるような授業の組み立てや、言葉掛けが必要である。
- ・授業時と休み時間、聞く時と作る時など、活動にけじめをつける必要がある。(生活指導面)

C. 具体的な授業改善に向けての方策

- ・他の児童への参考となるように、制作途中で相互鑑賞の時間を設け、児童同士でよさを伝え合えるようにして、自己肯定感を高める。
- ・ねばり強く取り組めるよう、児童の実態に合わせた制作時間を設定する。
- ・やり方、方法を主体的に理解できるよう、説明時にはICT機器を活用する。
- ・いろいろな道具・素材の扱い方を経験でき、主体的に発想して表現する力が身に付くよう、6年間を見通しての題材設定を考える。特に低学年では、様々な素材に出会わせて、表現する喜びを味わわせることを重視して指導の工夫を行っていく。
- ・グループで制作したり、作品を見合ったりといった協働学習を意識的に行う。
- ・道具の基本的な使い方を覚えさせ、安全な使い方や場所の取り方などを考えて使うことができるようにする。
- ・意識して活動の切り換えを早くできるよう、授業の導入時にきちんと見通しをもたせたり、時間がかかっても話を聞く姿勢ができるまで待ったりするなどの方策を行う。

【家庭】

○ 児童の状況

- ・特に調理・被服等の実習に興味をもち、すすんで取り組もうとしている。
- ・経験の差が大きく、用具の扱い方や準備・片付けなど、手際よく丁寧に扱うことができる児童がいる反面、初めて経験する児童や友達に頼りがちな児童も多く見られる。
- ・課題に対しては、概ね真面目に取り組むことができる。調理実習の前に家庭で事前実習したり、学校で学んだことを家庭で実践したりする児童もいる。

○ 指導についての課題

- ・調理・被服等の実習において、完成時間に個人差があり、早く終わった児童への課題提示や、時間内に終わらなかった児童への個別指導に工夫が必要である。
- ・家庭実践の課題については、家庭の事情も配慮しつつ、児童自身に明確な目的をもたせ、すすんで取り組めるよう学校での意欲付けをしていくことが必要である。
- ・座学においては、私語が多くなるため、指導の工夫が必要である。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・調理や被服実習においては、師範したり、絵や写真資料、動画等を使ったりしながら具体的に説明をし、一つ一つの活動内容を確認させながら誰にでも分かるように進める。
- ・活動に見通しがもてるよう、計画の段階で材料の準備や製作の手順等について指導をする。活動の流れが分かるように掲示する。
- ・授業のはじめにめあてを示し、授業の終わりにふり返りを行い、「今日の学び」を意識させる。
- ・実態に応じた資料を用意したり、グループでの教え合いができるよう座席を工夫したりして基本的な技能が身に付くようにする。
- ・個人差が生じやすい学習（ミシンの操作等）では、保護者や地域の方等の支援を受けながら複数で指導に当たる。
- ・環境や安全を考えた用具の準備、調理、片付けができるよう、意識させて取り組ませる。（針の数を確認、換気やゴミの処理等）
- ・ねらいに沿って自己評価や相互評価をさせることにより、次の活動への意欲や自信をもたせ、自らの課題を意識した主体的な学習ができるようにする。
- ・ミシンや計量器等の検査を定期的に業者に依頼し、調整する。
- ・二人組、三人組等の小グループや班での協働学習を取り入れる。

【 生活科 】

○児童の状況

1年

- ・多くの児童が、学校たんけん、クラスや学年間での遊び、異学年の児童との交流等を通して、身近な人や社会とかかわる楽しさを実感することができている。
- ・一部であるが、なかなかコミュニケーションをとることが難しい児童もいる。
- ・気付いたことや楽しかったことを素直に言葉にできる児童が多い。
- ・自分の考えを、文章で表現したり皆の前で発表したりすることに苦手意識の強い児童が多い。

2年

- ・異学年交流の場、特に1年生との交流の場を通して、相手を思いやる気持ちや、みんなで協力したり、グループをまとめたりする力が付いている。
- ・活動の振り返りをする中で、大半の児童が自分の思いを表現し、次の活動につなげることができているが、自分の思いを表現することが苦手な児童もいる。
- ・町探検等、校外での活動を取り入れることで、地域への関心が高まり、意欲的に活動をする姿が見られる。

○指導についての課題

- ・2年生は、上級生として、1年生に優しくしたり、手本になったりしようという意識はあるが、普段の生活ではまだその意識が不十分なことが多い。
- ・植物を育てたり、生き物と関わったりする経験が少ない児童が多いため、積極的に実物を見たり触れたりする体験型の活動を多く取り入れる必要がある。
- ・地域の人や異学年との交流など実体験を通して、様々な人とコミュニケーションがとれる場を計画的に設定していく必要がある。
- ・地域学習、異年齢の交流、集団での活動を楽しめるような活動を計画する場合、安全面や配慮が必要な児童への対応をとるだけの人での確保が難しい。

○具体的な授業改善に向けての方策

①自然認識に関わって

- ・身近な自然に目を向け、興味・関心をもって観察して、絵や文で表現することで、育てている植物の成長を楽しみながら世話を続け、花が咲くことや、実を収穫する喜び等を味わわせる。
- ・観察の視点を明確にするために積極的にICT機器を活用し、全体で共通理解を図ったり、細部まで観察できるようにしたりして、科学的なものの見方を育てていく。

【総合的な学習の時間】

○ 児童の状況

- ・自分の興味・関心に合わせて課題を選び、学習を進めることを楽しんでいる様子が見られる。
- ・各学年が「環境」というテーマに対して、様々な体験活動を系統立てて積み重ねている。

○ 指導についての課題

- ・調べたことをまとめて満足する児童が多い。調べた結果に自分なりの考察をもたせるための手だてを工夫する必要がある。
- ・総合的な学習のねらいである「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え」という段階にまでは達せず、児童によっては課題がなかなか見付けられないため教師主導の指導になることがある。
- ・「プログラミング教育」を進めるにあたって、全学年の総合全体計画（時数も含めて）を見直す必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・課題を明確にもち、調べたりまとめたりしたことを、発表する時間を計画的に確保することで、目的を明確にもって学習できるようにする。
- ・図書室に各学年の学習内容に関連した本を計画的に増やし、学年ごとに貸し出しをするなど、図書室を調べ学習に利用しやすい環境に整える。併せて、地域図書館との連携を深め、団体用貸し出しを利用する。
- ・指導計画を立てる際、次のようなことに留意する。
 - ①学校の周りの地域に目を向けさせる。
 - ②他教科等との関連を図る。
 - ③先進校の実践に学ぶ。
 - ④児童の活動を想定して計画立案を工夫する。
- ・各学年とも、保護者、地域の方、企業など、テーマに合わせたゲストティーチャーを迎え、児童の思考の広がりを促す。
- ・小中一貫教育の一環として、児童の興味・関心にあったテーマを選び、合同授業を行う。
- ・情報通信技術を活用し、その特長を生かすことによって、一斉指導による学び（一斉学習）や児童一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、そして児童同士が教え合い、学び合う協働的な学び（協働学習）を推進していく。

【体 育】

○ 児童の状況

- ・ 体育が好きで体を動かすことが好きな児童が大半を占めているが、運動領域によっては苦手だと感じる児童もいる。
- ・ 学年が上がるにつれ、日常的に運動する児童と、そうでない児童との二極化が進んでいる。
- ・ 互いに教え合ったり、励まし合ったりできる児童もいる。
- ・ 令和4年度体力テストの結果から体力合計点の平均が全ての競技において、全国平均を下回っている。
- ・ 器械運動系（跳び箱・鉄棒）は落ちる恐怖心から積極的に取り組めない児童が一定数いる。
- ・ 運動の経験や技能の差が学年男女を問わずみられる。特に、R4年度体力テストの結果から反復横跳び（巧緻性）、ソフトボール投げ（投力）に課題がある児童が多い傾向がある。

○ 指導についての課題

- ・ 本年度の校内研究を通して、運動することに楽しさを感じさせるような指導法の工夫について研究していく。その研究の成果を、一時的ではなく、継続的に指導していく必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・ 運動経験や技能の差を考慮し、運動の特性を十分に味わわせるような学習過程、支援の工夫を行うようにする。基本的な技能を重視し、高められるような工夫した指導を行う。
- ・ 年間指導計画をもとに2年間を見通した授業を行う。
- ・ 学習カードの形式を学年で合わせて統一し、一貫性のあるものにできるように取り組む。
- ・ 低学年では、発達段階に応じた運動遊びを行い、運動の楽しさやできる喜びを味わわせ、その後の運動につながる感覚づくりを多く経験させる。
- ・ 中学年では、運動を楽しく行う中で、技能の習得や体力の向上を図る。
- ・ 高学年では、児童に自己の課題や集団（チーム）の課題をしっかりと意識させ、めあてを立てさせる。また、「体づくり運動」で意図的、計画的に体力を高める。
- ・ 児童の実態や発達段階に合わせた学習カードや資料などを作成し、各運動領域の指導に活用していく。（毎年使えるような資料をまとめて）
- ・ 児童の思考・判断を育ませるため、見合いや運動のポイントを考えさせる授業づくりを計画・実行する。
- ・ 運動の日常化につながるような環境整備を継続的に行っていく。

- ・学級に貸し出すボール、フリスビー、なわとびのほかに、運動委員によるバスケットボールの貸し出し、縄跳び台の設置により児童が外で自由に使用できるようにする。そのことにより、投力の向上を図る。毎月の体育朝会を活用して、日常的に運動に親しめる環境作りに努める。

【外国語・外国語活動】

○ 児童の状況

- ・外国語に興味・関心をもつ児童が多い。
- ・ゲームやチャンツ,リズムボックスを通して英語の発音やリズムを楽しんでいる。
- ・中学年はアルファベットに親しもうとする児童が多く,高学年は興味関心のある日本語を英単語に変換して学ぼうとする児童が多い。
- ・積極的に大きな声で発声できる児童と自信がなく小声になる児童がいる。
- ・罫線を正しく使えない児童や英単語を正しく書けない児童がいる。
- ・音声を聞いて大事な言葉を聞き分けることが難しい児童が多い。

○ 指導についての課題

- ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う必要がある。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとし、外国の言語や文化について理解を深める必要がある。

○ 具体的な授業改善に向けての方策

- ・場面設定を工夫し、国際理解にかかわる交流などの体験的なコミュニケーション活動を行うことで、関心・意欲を高める。
- ・デジタル教科書を使って、音声や映像を多く用い、関心・意欲を高める。
- ・友達との関わり合いを大切にしながら、体験的なコミュニケーション活動を行う。
- ・ジェスチャーなども交えて積極的にコミュニケーションしようとする態度を育てる。
- ・チャンツや歌、ALT とのコミュニケーションを通して、楽しみながら外国語の音声に慣れ親しませる時間を確保する。
- ・ねらいに応じたアクティビティを選択し、繰り返し取り組ませて慣れ親しませる。
- ・会話を重視したフレーズ練習を繰り返し行う。それを生かして児童同士が関わり合うことができるアクティビティを楽しみながら活動できるようにする。
- ・罫線を使い、正しく英単語などを書けるようにする。
- ・音声の中から大事な単語を聞き取ったり、単語から文章を想像する力を付けられるようにする。

【道 徳】

○児童の状況

- ・ 道徳授業が好きな児童が多い。授業中に述べた意見を間違いとされることがなく、自由に発言できる雰囲気があるからと思われる。また、教材に絵が多用されていたり、感動教材が多いこともあったりするため、教材を読むことを楽しみにしている様子がある。

○指導についての課題

- ・ ねらいとする価値の自覚を促したいが、授業の流れが他の価値に行ってしまうたり、国語的な発問となって場面を追っただけで価値への深まりがなかったりすることがある。
- ・ 学年が上がると挙手が少なくなり、教師との一問一答になってしまうため、児童一人一人の価値の自覚がどの程度できたのか把握しにくいことがある。

○具体的な授業改善に向けての方策

- ・ 資料について学年で話し合う時間を設け、授業展開と発問について意見交換をして資料についての理解を深める。
- ・ パネルシアターや紙芝居、ICT 機器を使った場面絵、効果音などを使い、視覚や聴覚に訴えるような教材提示の方法を工夫する。
- ・ グループでの話し合い、ディベート型話し合いなど、話し合いの方法を多様化して意見を言いやすくしたり、話し合いが楽しいと感じたりするような授業展開にする。その際、道徳ノートやワークシートを活用し、児童一人一人が自分の考えをもてるように工夫する。
- ・ 一人一台端末を活用できるように工夫する。様々な児童の考えが視覚的に見えるような配慮をすることで、全体に考えが広がるようにする。
- ・ 道徳ノートの他にも、東京都の道徳教育教材集「心あかるく」「心しなやかに」「心たくましく」等を使って、そのときの考えを記録させていくことで、考えの変容や学習状況の成長が分かる記録となるようにする。
- ・ 学級の中で自由に意見が言い合える雰囲気作りを普段から心掛ける。